



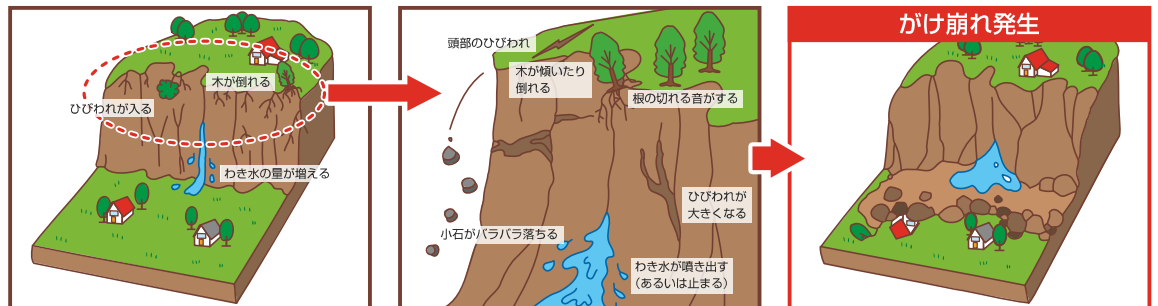
土砂災害について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日頃から危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

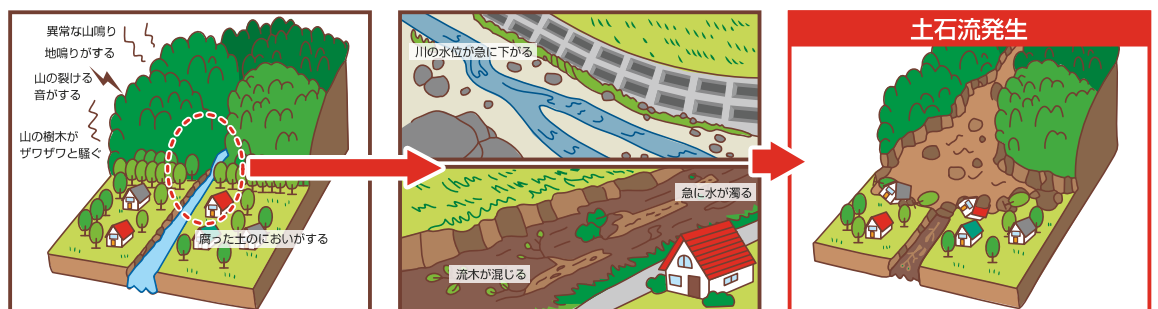
がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



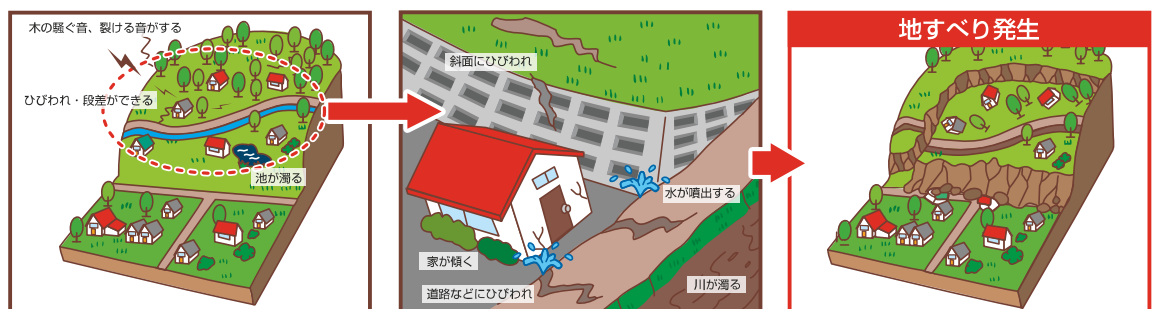
土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

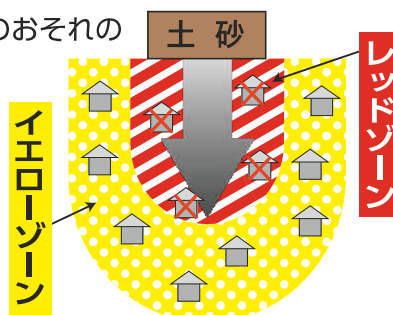


※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

- 土砂災害 特別警戒区域(通称：レッドゾーン)
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
- 土砂災害 警戒区域(通称：イエローゾーン)
土砂災害のおそれがある区域



新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」

警戒区域にまだ指定されていない土砂災害が発生する恐れのある箇所が公表されています。



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。



- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上のできるだけ山側から離れた部屋に移動する。





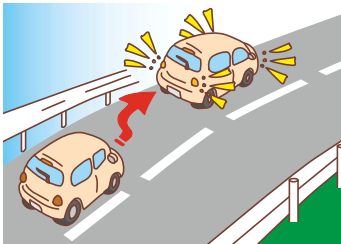
地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時のタイムライン

◎緊急地震速報	すぐに身を守る行動をとる 身近にあるもので頭を保護し、倒れてくるものから身を守る。	   ※画像提供 「効果的な防災訓練と 防災啓発提唱会」
地震発生	最初の大きな揺れは約 1 分間	
数分	揺れがおさまったら ●火元の確認 火を使っているときは、あわてずに火の始末 ●脱出口の確保 扉や窓を開けて、出口を確保 ●靴・スリッパをはく ガラスの破片や散乱物から足を守る	
5分	みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ ●家族の安全を確認 ●電気のブレーカーをおろす ●ガスの元栓を閉める ●非常用持ち出し袋を用意 すぐに持ち出せる場所に置いておく	
10分	高齢者世帯など隣近所の安否確認 高齢者の世帯、要配慮者のいる世帯などには、積極的に声をかける	
数十分	協力して初期消火、救出・救護活動を 周囲に応援を呼びかけて、できるだけ複数で行う 自身の安全を第一に、無理な救出・消火活動は行わない	
数時間～	自宅と周辺の被害状況を確認 自宅とその周辺が無事であれば、環境変化が比較的少ない自宅で避難生活する 自宅にいられない場合は、避難所に避難	

地震の時はどのように行動したらいいか?

地震の揺れを感じた場合、あるいは緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずにまずは身の安全を確保してください。そして、落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンのワンセグやネット通信機能など、様々な手段を使って正確な情報の把握に努めましょう。

家庭で屋内にいるとき		人が大勢いる施設(大規模店舗などの集客施設)にいるとき			
●家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。 ●あわてて外に飛び出さない。 ●料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない。		●あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う。 ●従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる。 ●吊り下がっている照明などの下から退避する。 ●あわてて出口や階段に殺到しない。			
					
自動車運転中		屋外にいるとき			
●あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす。 ●ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する。		●ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる。 ●ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる。			
					
山やがけ付近にいるとき		鉄道・バスに乗っているとき		エレベーターに乗っているとき	
●落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる。		●つり革や手すりにはしっかりつかまる。		●最寄りの階で停止させて、すぐに降りる。	
		